

まだらの風



令和6年10月25日
学校便り No.13
校長 原口 真

『 見つけよう自分らしさ、認めよう仲間の良さ、高めよう馬渡の力 』
～自分を愛し、周りの人を愛し、島を愛する児童生徒に～

中学生の探究学習に必要なゲンコウの果実。幻の香酸柑橘といわれ入手困難なのですが、野中の大谷さんから、子どもたちのためにと沢山提供していただきました。文化祭でゲンコウサイダーとしてふるまい大好評でした。

キャリア講演～自分の強みを理解し、挑戦と経験を

10月7日(月)中学生向けにキャリア講演会を行いました。講師の原口大河さんは、水産大学で水産学や乗船実習、沿岸調査などを学びました。大学卒業後は業務用冷凍食品会社に就職し製品開発に携わり3年間働いたところで、視野を広げて海外で働く経験をしてみたいとの思いから、ワーキングホリデー制度を利用し、豪州のシドニーで1年間を過ごしました。文化や考え方が異なる中で苦労することもありましたが、海外での生活を経験したことは大きな財産になったということです。この経験を通して子どもたちに伝えたいこととして、○人それぞれに色々な考え方があること ○自分の強み(好きなこと、得意なこと)を理解すること ○いろいろなことに挑戦して多くの経験をしてほしいと語ってくれました。この講話を聴いた生徒は「経験を積みチャレンジすることはとても大切だと思った」「自分の強みを生かして未来の自分につなげていきたい」「自分の目標を設定したい」「将来、色々な職種を体験してみたい」などと感想を持っていました。自分のキャリアを具体的に考えるよい機会になりました。



生徒会募金活動～能登半島豪雨災害を支援

9月に発生した能登半島豪雨では、奥能登地域を中心に河川の氾濫、土砂災害が多発し、住宅への浸水などに伴い14名もの尊い命が失われる大きな被害が出ました。被災地の復興にはこれから多くの時間と資金がかかります。この状況を受け、馬渡中の生徒会では被災地支援のため募金活動を行いました。中学1、2年生を中心に学校内での活動に加え、馬渡漁港桟橋でフェリー利用客の方々にも募金を呼び掛けました。文化祭でもたくさんの方の協力をいただきました結果、20,785円もの募金が集まりました。今回の募金活動で集めたお金は唐津地区中学校生徒会でとりまとめて、社会福祉協議会を通して日本赤十字の能登半島豪雨災害義援金として役立てていただきます。



令和6年度文化祭大成功！こどもたちの活躍に、保護者・地域の方の拍手と歓声響く



10月19日(土)「Just try it!!～最高の仲間と楽しみ笑顔で島を盛り上げよう～」のテーマの下、令和6年度文化祭が開催されました。

小学生は令和の最新曲から昭和の大ヒット曲を織り交ぜた「Shall we ダンス」で会場を盛り上げ、伝統楽器の琴で「さくらさくら」の雅な演奏、先生たちも加わった合奏「さんぽ」では10種類もの楽器で豊かな演奏を披露し、児童演劇「あつまれ国語の森」では教科書の登場人物となって手紙を届けたりサラダを作ったり大きなカブを抜いたり大活躍でした。中学生は「ふるさと」をはじめとした大正琴演奏で幕を開け、島の魅力プレゼンでは書とイラストを使った「島の人を笑顔にしようプロジェクト」、海で拾った流木をリサイクルした「椅子制作」、イノシシを活用した「肉料理」。「ゲンコウ」を原料にしたサイダーとマーマレードは休憩時間にふるまわれ、行列が途絶えませんでした。中3生徒がプログラミングしたゲームの実演、島民の方へのインタビューに基づいた「戦争体験」と「馬渡饅頭」についての発表、奇跡の一瞬をとらえた動画の披露等、3時間があっという間に感じるステージ発表でした。会場内には児童生徒の各教科の作品・制作物・成果物、研究発表や島民の方の作品も所せましと展示され、会場を訪れたみなさんが熱心に見入っていました。休憩時間には子どもたちと参観者の皆様がたくさんふれ合う様子が見られ、懐かしい方との思い出話にも花が咲いていました。